

1 「生徒による授業評価」報告書について

- 全県立高等学校及び中等教育学校（後期課程）における12月1日から1月15日までの「生徒による授業評価」の結果、「生徒による授業評価」に関わる取組及び授業改善に向けた取組などについて集計・分析した。
- 令和4年度の「生徒による授業評価」の評価結果の回答総数は次のとおりである（第1表、第2表）。

第1表 共通教科回答総数

国語	地歴	公民	数学	理科	保体	芸術	外国語	家庭	情報	理数
144,508	95,338	44,259	106,780	108,907	140,714	41,608	145,209	35,068	30,194	623

第2表 専門教科回答総数

農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	理数	体育	音楽	美術	英語	舞台芸術
6,021	16,808	6,835	959	2,272	1,238	1,002	2,280	11	2,913	689	1,281	529	217

- 令和元年度から、高等学校学習指導要領の改訂等に対応するため、すべての質問項目を改訂した（第3表）。

第3表 「生徒による授業評価」の質問項目（共通小項目）

大項目	共通小項目（標準例）		項目の趣旨
授業の在り方について	1	毎時間の授業や単元（内容のまとまり）のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある	「主体的な学び」に関する項目
	2	単元（内容のまとまり）の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある	「対話的な学び」に関する項目
	3	単元（内容のまとまり）の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある	「深い学び」に関する項目
学習の状況について	4	授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた	「項目1」と関連の深い項目
	5	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知するなど、自らの考えを広げ深めることができた	「項目2」と関連の深い項目
	6	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた	「項目3」と関連の深い項目
	7	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた	より高次な学びの構築に関する項目

- 学校で取り組んでいる研究の成果指標として活用したり、生徒の実態に即した項目を設定したりするため、7項目の共通小項目に加えて、さらに学校独自の小項目を設定することができる。各学校で独自の小項目を設定する際の参考のため、学校独自の小項目の例を掲載する。

- 学習に取り組む時、ICT機器（タブレット端末、スマートフォン等）を活用することで、自ら学んだり、他者と学んだりすることができた。
- 授業でわからないところがあったら、先生や友達に聞いたり、自分で調べたりするなどしてわかろうとする努力をしている。
- 教材が工夫されるなどして、取り組みやすく、生徒の理解度に合わせた授業が進められている。
- 私は授業のルール、マナー（携帯電話、ヘッドフォン、飲食、おしゃべり、居眠り、途中入退室をしない等）を守っている。
- 授業で楽しいと感じる活動、自ら進んで学習に取り組みたいと感じる活動として当てはまるものはどれですか。
 グループ活動 個人活動 問題演習 ICTを活用 調べ学習 発表 レポート作成 その他

2 集計・分析の結果

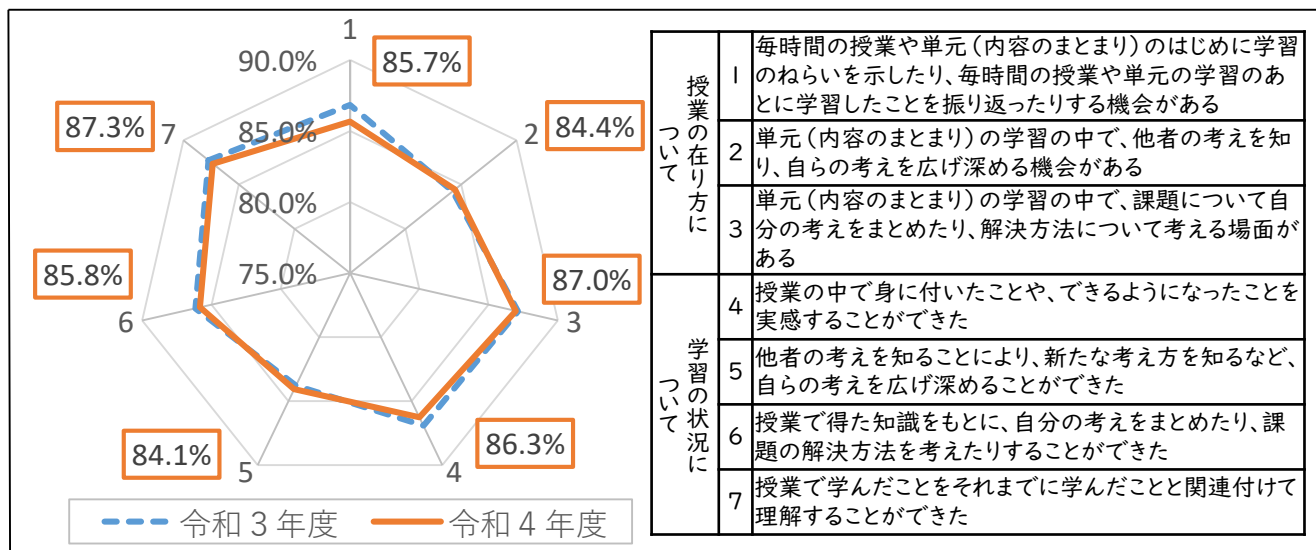
(1) 共通教科について

○各教科及び全体について、肯定的な回答(評価「4 かなり当てはまる」又は「3 ほぼ当てはまる」)をした割合を、共通小項目ごとに示した(第4表)。

第4表 共通教科の集計結果 (単位は%、小数第2位を四捨五入)

共通小項目	国語	地歴	公民	数学	理科	保体	芸術	外国語	家庭	情報	理数	平均
1	85.7%	86.1%	86.6%	84.5%	84.4%	87.1%	86.2%	86.1%	85.0%	83.2%	89.1%	85.7%
2	87.2%	82.8%	85.9%	82.2%	81.2%	85.2%	84.8%	86.7%	84.3%	79.4%	96.5%	84.4%
3	88.2%	85.1%	87.0%	87.0%	85.6%	88.0%	86.8%	87.4%	86.5%	85.1%	97.3%	87.0%
4	85.2%	84.2%	85.9%	86.4%	84.4%	88.9%	89.3%	86.6%	86.7%	86.5%	82.3%	86.3%
5	86.4%	83.3%	85.8%	81.8%	80.9%	85.4%	84.9%	85.1%	84.1%	80.2%	96.1%	84.1%
6	86.1%	85.0%	83.1%	85.6%	84.5%	87.7%	86.5%	86.2%	86.2%	84.2%	92.8%	85.8%
7	86.7%	88.2%	89.5%	86.6%	86.3%	88.2%	87.2%	87.8%	87.3%	85.4%	87.8%	87.3%

○共通教科全体について、肯定的な回答をした割合を、共通小項目ごとにレーダーチャートで示した(第1図)。



第1図 共通教科全体において、肯定的な回答をした割合

○共通教科全体における肯定的な回答の割合は、昨年度と比較して、いくつかの項目においてやや減少した。しかし、令和2年度から4年度にかけ、肯定的な回答の割合において大きな変容は見られない。多少の増減はあるものの、コロナ禍においても全ての項目で80%以上という高水準を維持していることは、各学校におけるICTの利活用等の取組をはじめ、コロナ禍における授業改善が確実に進んでいて、その成果が表れていると考えられる。

○「対話的な学び」については、「項目2」や「項目5」が昨年度それぞれ1.1ポイントと最大の上げ幅を見せていたのに続き、今年度も前者が0.2ポイント、後者が0.3ポイント上昇しており、改善への取組がいつそう進んでいることがわかった。一方で「項目1」が昨年度より1.1ポイント下がり、「項目4」が0.6ポイント下がった。単元(題材)の目標に基づく「見通しと振り返り」を適切に設定し、生徒が「できた」と実感できる学びが実現するよう、各学校の状況や課題をふまえた授業づくりを推進していくことが必要である。

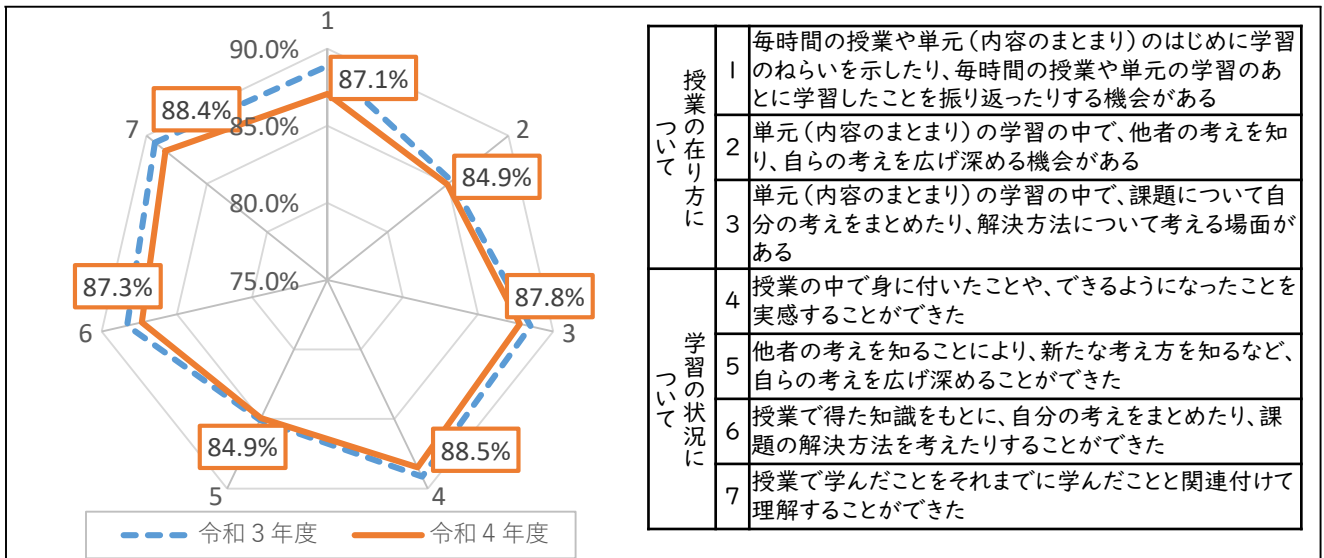
(2) 専門教科について

○各教科及び全体について、肯定的な回答（評価「4 かなり当てはまる」又は「3 ほぼ当てはまる」）をした割合を、共通小項目ごとに示した（第5表）。

第5表 専門教科の集計結果（単位は%、小数第2位を四捨五入）

共通小項目	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	理数	体育	音楽	美術	英語	舞台芸術	平均
1	86.5%	83.9%	83.6%	93.2%	92.2%	94.6%	88.6%	94.7%	81.8%	93.5%	95.6%	89.7%	92.0%	99.1%	87.1%
2	82.7%	82.1%	81.0%	91.2%	90.0%	92.3%	86.8%	93.8%	81.8%	92.5%	91.4%	88.9%	92.8%	96.3%	84.9%
3	86.9%	83.9%	86.3%	93.0%	92.4%	96.1%	91.0%	95.7%	90.9%	94.1%	93.9%	91.9%	93.0%	96.8%	87.8%
4	89.5%	84.6%	87.3%	92.4%	93.5%	94.1%	89.3%	96.0%	81.8%	93.7%	96.5%	92.1%	93.9%	96.8%	88.5%
5	82.9%	82.3%	80.8%	89.2%	90.1%	91.6%	87.5%	93.7%	72.7%	91.9%	91.4%	89.5%	92.2%	96.3%	84.9%
6	87.4%	83.4%	85.4%	92.0%	91.9%	95.5%	90.1%	95.8%	72.7%	93.4%	95.4%	91.0%	93.6%	96.3%	87.3%
7	89.2%	84.3%	86.6%	92.8%	93.4%	95.6%	89.4%	96.1%	81.8%	94.7%	97.1%	92.6%	93.0%	98.6%	88.4%

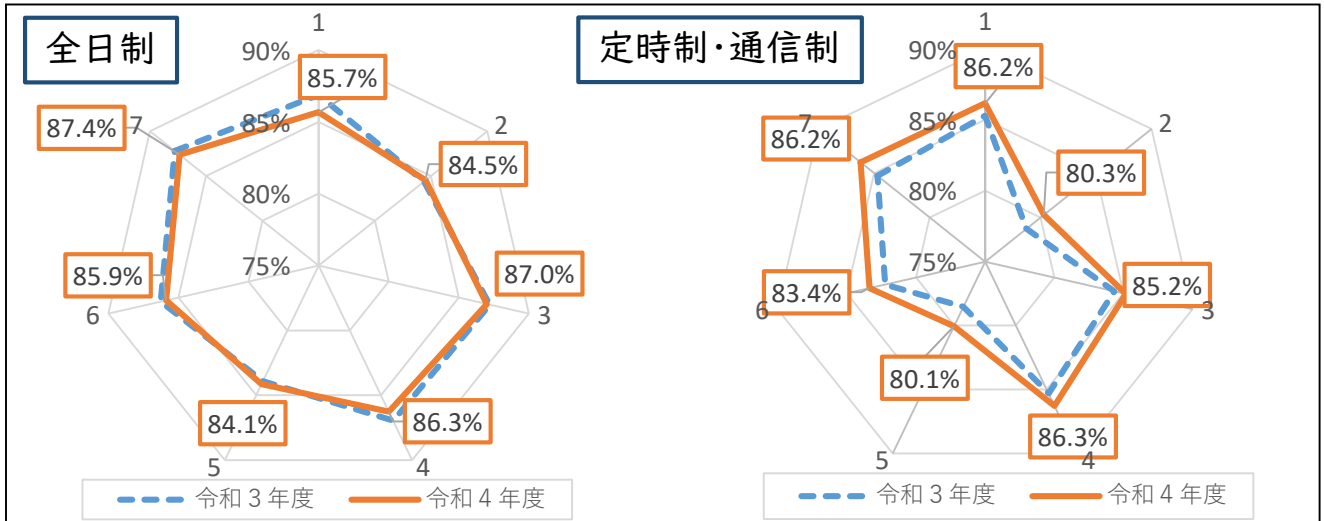
○全問教科全体について、肯定的な回答をした割合を、共通小項目ごとにレーダーチャートで示した（第2図）。



第2図 専門教科全体において、肯定的な回答をした割合

(3) 全日制課程及び定時制・通信制課程について

○全日制課程と定時制・通信制課程の共通教科全体において、肯定的な回答をした割合を、共通小項目ごとにレーダーチャートで示した（第3図）。



第3図 共通教科全体（課程別）において、肯定的な回答をした割合

3 「生徒による授業評価」に関わる取組、授業改善に向けた取組など

(1) 「生徒による授業評価」の活用

「生徒による授業評価」をどのようにいかしているかについて、各学校から次のような回答があった。

- 前期の実施結果を受けて、各教科で分析を行い、それを受けて授業改善の方策について議論する研修会を設けた。その後、それらを意識した授業改善を行い、その結果を反映した後期の授業評価で、再度結果を分析し、更なる改善につなげた。また、ICT利活用の状況や効果を検証する資料としても活用した。
- 本校では教員別に結果をまとめている。教員は自身の評価の結果（各項目の1～4の数と割合）と、教科の平均、全体の平均を知ることができ、それを踏まえて自身の授業改善に取り組んでいる。また生徒による教員へのコメント（授業の要望や感想）も集計しており、その内容も教員に開示、授業改善に活かしている。
- Formsで授業評価を行っており、データを全職員が共有しているので、評価結果をいつでも見ることができる。

(2) 「生徒による授業評価」に関する課題やその解決方法

「生徒による授業評価」に関する課題やその解決方法について、各学校から次のような回答があった。

- 小項目2,3,5の評価4と3の合計は昨年と比較して伸びている。今後は、評価4の割合が高まるよう、生徒が学習の見通しを持ち、事後に学習を振り返り、自身の学習を調整するというサイクルを確立していく。
- 結果のフィードバックを教員だけでなく、生徒に対しても行う仕組みが必要である。
- 非常勤講師が多く、また、生徒の時間割も1人ひとり違うので、「生徒による授業評価」の実施・周知が難しい。そのため、Classroomを作成し、実施のお知らせをしている。教員の指示がなくても、Classroomの指示を見れば回答できるようにしている。
- 第1回の結果で、項目2の否定的回答が目についた。授業改善では、これを課題と認識した教科すべてで生徒の意見表明を意識した取組をし、否定的回答は0にはならなかったが、減少（28→8）させることができた。

(3) 「生徒による授業評価」以外の授業改善に関する取組

「生徒による授業評価」以外の授業改善に関する取組について、各学校から次のような回答があった。

- 組織的な授業改善のための授業力向上校内研修会を2回実施した。校内授業研究における研究の検証として、公開研究授業を実施した。授業観察期間や研究授業など、互いの授業を見学しあうようにしている。
- 「1人1台端末」に関する研修を行った。1学年生徒が購入した端末を、実際に授業で活用している教職員数名に、活用しているアプリケーションの紹介、端末の使い方などの講義を依頼し、教職員全員で研修を行った。
- 各教科の代表で構成する「授業研究委員会」があり、今年度は新カリキュラムである新1年生の授業改善をテーマに、主にICTの活用に関して活動した。活動の報告は適宜、教科会等で行われている。
- 授業評価に合わせて、授業に対するコメントを毎学期終わりに生徒に課しており、課題や改善策などを提示してもらっている。これが非常に有用で、生徒の気づきを次学期の授業改善に活かすことができる。
- 各教科より1名選出してICT利活用推進委員会を設置したり、教科ごとに今年度の目標や授業デザインの策定を行っている。また「授業改善サークル」「I café」の実施や、校内授業見学週間を設けている。
- 今年度は東京都の私立学校に見学に行き、先進的な取り組みや教員研修の様子を見学した。

4 「生徒による授業評価」のよりよい活用のために

- 令和2年度から4年度の3年間のデータからは、コロナ禍においてもICTの利活用をはじめ、学校現場での改善が促進されたことがわかる。今後は、これまでの授業改善が目標の達成につながったかを検証しつつ、さらに多くの生徒が肯定的な回答になるよう各学校の特色をいかして、目標となる資質・能力の育成のために指導と評価の一体化を踏まえた指導計画を立てていただくことを期待する。